

## SS11-2 がん種横断型分子病理情報システムによる

### 業務支援

## Support system for diagnostic workflow by providing cross-cancer molecular pathological information

中西陽子<sup>1)</sup>、五味悠一郎<sup>2)</sup>、大城真理子<sup>3)</sup>、増田しのぶ<sup>1)</sup>

日本大学 医学部 腫瘍病理学<sup>1)</sup>、日本大学 理工学部<sup>2)</sup>、名桜大学<sup>3)</sup>

Yoko Nakanishi<sup>1)</sup>, Yuichiro Gomi<sup>2)</sup>, Mariko Oshiro<sup>3)</sup>, Shinobu Masuda<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Division of Oncologic Pathology, Nihon University School of Medicine, <sup>2)</sup>College of Science and Technology, Nihon University of Medical Information Management, <sup>3)</sup>Meio University

がん治療の進展に伴い、病理診断では組織形態学的な評価に加えて、がん細胞に特異的な蛋白発現や遺伝子異常を調べる必要が増している。しかし、病理医は全診療科に対応するため、診療科別に分散しているこれらの分子情報を自助努力によって網羅し、更新しなければならない。工程管理の対象とならない情報検索や収集の現状は、医師の情報格差をもたらすことが懸念される。われわれは、エビデンスに基づく分子検査情報に特化した、病理学的情報の組織化について検討してきた。がんの鑑別診断における分子検査情報の一元化を試みた本システムは、個人の経験や専門性を問わない日常的な病理診断業務の効率化をめざすものである。特に、専攻医など経験の浅い病理診断医の教育と支援や、特定の臓器や領域に特化しつつある病理診断専門医における非専門臓器領域の診断業務支援および生涯教育への有用性が期待される。